

■超人への道■

空を飛ぶ鳥を落とし、岩をも砕く

という、^{おそ}恐るべき^{みつきよう}密教超能力。

この不思議パワーを、あなたも手

に入れることができるという。密

教の秘密と、超能力開発の^{ひぎ}秘儀を、

いまここに大公開する！



みつ きょう ちよう の う り よ く

密教超能力

■監修・指導／中岡 俊哉

■構成・文／峰 さとる

■資料協力／後藤 一郎



密教とは、仏教から発展した教えに、各種の呪術までも取り込んだ秘密の教義である。密教では顕教（密教以外の仏教）のように多くの修業をしなくても「不思議な力」を得られるという。では、密教の不思議な力とは、いったいどれほどのものなのだろうか。



中国チベットのラサ。取材中の中岡俊哉氏は、ここで面白い話を耳にした。

インド北部のシッキムとの国境に近い、海拔1500メートルほどの山の中で、二人の獵師が「念力」を使う仙人のような老人に出会ったというのだ。

その話はこうだ——。二人の獵師が鳥を追って山中に分け入った。そこで、動物の皮で作った服を着て、長いひげを生やした仙人のような老人に出会った。その時突然、大きなイノシシが突進してきた。二人の獵師は、すぐさま銃をかまえたが、その老人は二人を制し、す

さまじい気合いをイノシシに向かつて発した。すると、そのイノシシはもんどり打って倒れ、身動きしなくなった。老人が

「念力」で気絶させたという。「その老人の所へ連れていってほしい。」

中岡氏は二人の獵師にたのみこみ、現場へ出かけていった。そして5日後、ついにこの老人に出会えた。その時老人は、荒縄を首にくくりつけた小さなトラを一文連れて、山の中を散歩していたという。

「わしは、名を甫布という。今ちょうど100歳だが、このとおりの元気でびんびんしてお

る。わしは、この山で生まれ育ったのだが、ここに住んでいて不自由をしたこともない。何より、心のよりどころである大日様がいつしよにいてくださるから……」

その老人は、どう見ても60〜70歳くらいにしか見えなかったという。老人は、5歳の頃、父親と出かけたヒマラヤ山中で遭難し、そこでラマ僧にめぐりあい、15年の修業の後、密教の秘術を手に入れたという。しかもその後中国各地をめぐって密教の教えを守り、生まれた山の中にあつた荒れ寺で30年も修業を続け、現在の「念力」が完

成したと話したのだ。チベット密教と真言密教とは、きわめて似ている。修業も同じようだし、そこから生まれる超能力も、念力が中心なのだ。「その念力を見せて頂けないでしょうか。」

中岡氏の頼みに、老人はしばらく考えていたが、やがて外に出てこう言った。「どれでも好きな岩を選ぶがよい。念力で、その岩を割ってみせよう。」

そこには大小さまざまな岩がゴロゴロしている。昔から、一念岩をも通すなどというが、本当に念力で岩が割れるものなのだろうか。

甫布老人は、選ばれたひとつかえもある岩をじつと見つめ、

次に目を閉じて精神集中を始めた。そして2〜3分後。「よし、始めよう。」

立っている両足をぐっと踏んぱり、両手を固く握りしめ、老人は目を開いた。その顔がみるみる赤味を帯びてくる。「ギヤム・ダラダ……。ぐえええっ！」

山の空気を震わし、周囲全体をゆり動かすような、低い鋭い気合いが飛んだ。そして、すぐにもう一度。さらにもう一度。三度めの気合いと同時に、大きな岩にピピッとひびが入った。と次の瞬間、岩は二つに裂け、さらに各所にひびが入り、そして岩はいくつもの小石にと砕け散ったのだ。

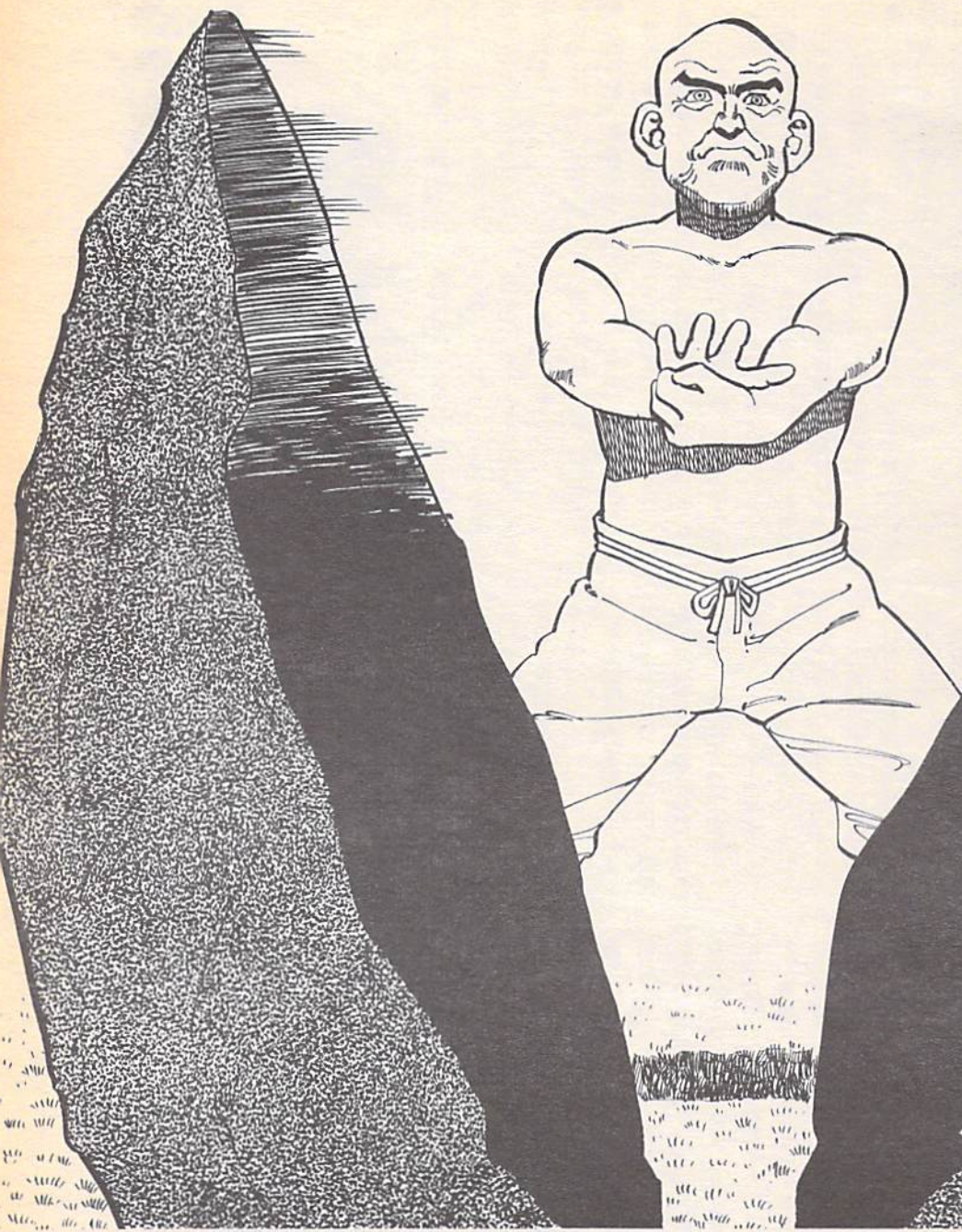
「念力で岩を砕く——。それは、

岩をも砕く



◆取材中の中岡俊哉氏（中国・北京）。

驚異の密教超能力



目の前で見た者にしか信じられないものだ。いや、目の前で見て信じられないほどのものだった。」

中岡俊哉氏は、このように語っている。

この甫布老人は、厳密にいえば、密教者ではないかもしれない。だが彼は、インド密教とチベット密教を学び、その修業を行い、大日如来を拜んでいる。やはり密教超能力者といんでもよいだろう。

李青雲という老僧は、かつて、副首相兼外相だった陳毅將軍ほか四十数名の軍人が見守る中で、ライフル銃より速く正確な力で、空を飛ぶカラスを落とした(本誌前号紹介)。このほか、中国には、念力でウサギを捕えたり、ろうそくの炎を動かしたりする密教系の僧がいる。

真言密教の祖とされる空海は、呪術(調伏)で悪霊や祟りをはらい、病気を治したという。そればかりではない。ときには敵を倒したり、雨を降らせたりもした。これらの話は単なる伝説以上の真実と考えるもいいのではないだろうか。

密教が授ける

五大超能力とは

密教の最終目標は「即身成仏」にある。だがその教えの中には、簡単に手に入る不思議パワーも存在する。

最も手に入れやすいのは、密教の呪術の部分だ。真言と印、そして咒符で、誰でも不思議な力を使えるようになる（本誌前号紹介）。

こうして得た力は、わずかな力でも驚愕の目で見られるものだ。だが、実は、もう少し修業をすれば、密教超能力の「念力」が手に入る。

密教超能力、とくに念力を得るための修業法はいくつかあるが、その方法を説明する前に、密教の教えについて、ごく簡単に触れておこう。

密教とは、原始仏教→小乗仏教→大乘仏教→密教という、仏

教の変化・進歩で生まれてきたと考えられる。（この流れを「進化」と捉えず「墮落」と表現する場合も多い。）

密教では、釈尊（釈迦）ゴータマ・ブツダ）が禁止していた呪術なども取り入れられている。密教という言葉は、それ以外の仏教を「顕教」と捉えるところから生まれているのだ。

真言密教の特色は「大釈別体・顕劣密勝・即身成仏」の三点だが、これが真言密教のすべてを表しているとも考えられる。「大釈別体」とは、大日如来と釈迦如来は別という考え方である。

大日如来（大毘盧遮那仏）が説いた真の教えが密教で、その他の世界中の諸宗教・諸聖者は、大日如来が姿を変えて教えたり、

その働きを受けて現れたものと考えられている。お釈迦さまも、大日如来の宇宙意識のもとで、紀元前5世紀ごろに生きた如来だという。

「顕劣密勝」の概念は、ちよつとむずかしい。顕とは、時間的・空間的に束縛された世界のこと、密とは、時空を超えた世界のことだ。宇宙意志ともいえる大日如来は、時間・空間を超えて存在し、なおかつ常に現世とも接触している。故に、顕教は劣り密教は勝つているという考えだ。

顕教では、時空を超えた世界は仏教の理想郷で、それは「悟りの境地」であるとする。厳しい修業の後、死後に得られる世界だと考える。

密教では、顕教が最高理想とする「成仏」の世界を、すでに現世に持てると考える。つまり、人間は本来、物だというのだ。「即身成仏」とは、われわれの身は、すなわちそのまま仏だという意味だ。もちろん、仏だけども、現在は迷いを持ち、衆生として生きている。だが、顕教のような厳しくたくさんの修業をしなくとも「不思議な力」により仏になれるというのだ。

簡単なたとえ話をすると、次のようになる。

岩に生命がある！

念力でイノシシを倒したり、カラスやウサギを捕えることは何となく理解できる。最近話題の「西野流呼吸法」の西野勉三氏なども手を触れずに人をふっ飛ばす。生命あるものを「氣」の力で動かすからだ。

だが、生命のない岩を動かしたり砕いたりすることは、とても理解できそうにない。

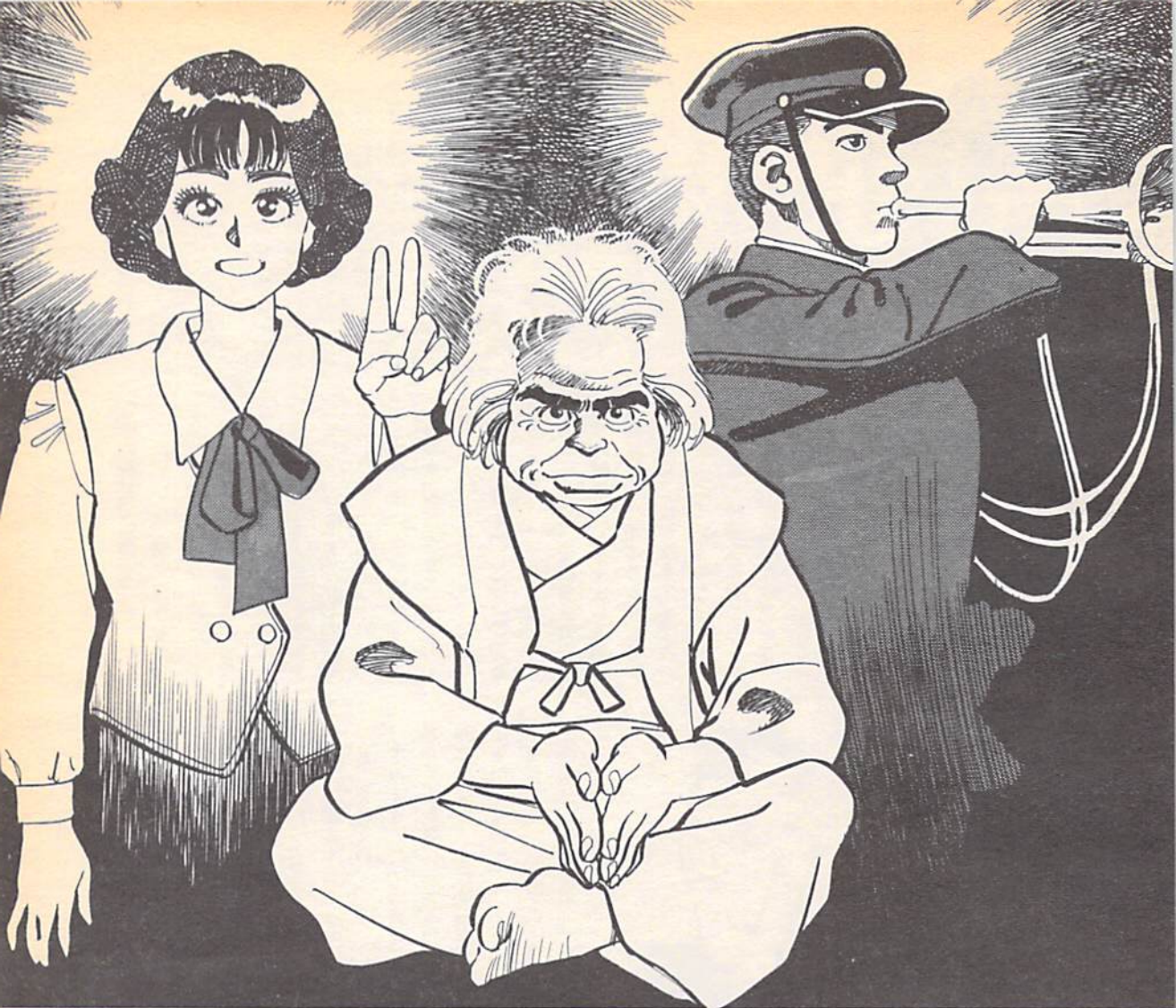
しかし、古代、インカ帝国やマヤ文明などでは、「石は生命あるもの」と考えられていた。切断したり加工するときも、石の生命を壊さないようにしたという。また、日本の修験道の相とされる役行者（役小角）も、念力で岩を動かしたとされている。修業を積んだ超能力者は、岩に生命を感じられるのかもかもしれない。

想とする「成仏」の世界を、すでに現世に持てると考える。つまり、人間は本来、物だというのだ。「即身成仏」とは、われわれの身は、すなわちそのまま仏だという意味だ。もちろん、仏だけども、現在は迷いを持ち、衆生として生きている。だが、顕教のような厳しくたくさんの修業をしなくとも「不思議な力」により仏になれるというのだ。

①無我力

この不思議な力こそ、「密教超能力」であり、それには次の5つがある。

①無我力 「我」を捨てる能力。無私の境地に到るもの。座禅を組んだとき、スポーツや芸術で陶酔状態になったときなどに、人はこの境地に陥ることがある。この状態は潜在能力をフルに発揮できるが、これを意



識的に作る能力が「無我力」である。

② 念力

心に念じた力で、物や人などを動かす能力。知る力ではなく、働きかける力のこと。カラスを落としたり、岩を割る力だ。サイコロの目を思うままに出すのも、この力。一般に超常現象とよばれるサイコキネシス（念力）・テレポーテーション（移動）・ネンダラフイー（念写）などが含まれる。

③ 遠知力

遠く離れた場所のできごとを見聞したり、未来を見る能力。密教には「本尊は我が身に入り、我本尊の身に入り、一体無二、無別なり」（真言宗説本より）と説明される「入我我入」の観念がある。本尊と自分ばかりが仏だと考えるのではなく、すべての人が仏になるように、成仏するように考えるのだ。この入我我入の悟りを得ると、遠知力が身につくとされる。

④ 心眼力

人の心を読みとり、また、人

を金縛りにしてしまう能力。

この力は相手が遠くにも通用する。テレパシーとクレヤボヤンス（透視）、サイコキネシス（念力）の三つをミックスした能力。チベットの活き仏といわれるダライ・ラマは「人間には第三の視力がある」と説いているが、これは心眼力のことを言っているようだ。

⑤ 通神力

神に通じ仏に通じる能力。すなわち、神仏を自由に招くことができる力で、死者の声を聞いたり、死者と対話したり、神仏の力を実際にあらわす能力。心霊科学の世界で「招霊」とか「心霊現象」と呼ばれている能力のこと。

以上の5つが「密教超能力」であり、これは「成仏するための切符」と考えてよいものだ。密教の修業を積めば、この5つが手に入るとされている。しかし今回は、これらのうちいちばん手に入りやすい「念力」開発法を紹介することにしよう。

念力とは、人間の精神力で物や人を動かす力である。心の中で強く念じること、物に働きかける力を生み出すものだ。密教の教理からすれば、物体と精神は、その本来の姿は一つということになる。密教でいうところの「至誠天地を動かす」は、念力にほかならない。

密教には5大超能力があるが、その最高の能力こそ念力であろう。そしてまた、多少のものなら、いちばん手に入りやすい超能力でもあるのだ。もちろん、岩を割ったり、イノシシを倒すほどの念力は、簡単に手に入るわけではない。しかし、「なるほど、念力というのは確かにあるのだ」と理解できる程度の力なら、比較的簡単に手に入る。

その方法とは、次の三つである。

- ①精神を統一する
- ②心霊力を高める

③念力開発の訓練をする

この三つは、順に行うもので、性急に③の訓練ばかり続けても意味がない。密教超能力の場合、ふつうに言われているESPとは多少違い、本人の自己制御と、仏心に近づく心の浄化が非常に大切なものになっている。即身成仏という仏になるための修業を通じて、その超能力を開発していくのだ。

密教は根本的に二つの面を持つている。一つは信仰、そしてもう一つは、密教実践による悟りの結果として生まれる超能力開発という面である。これがあるから、無神論者でも密教の世界に入っていくのだ。

最近では、精神世界のことや宗教のことがよく話題に登るし、その関係の本も数多く出版されている。密教についても、じつに数多くの本が出されている。

これらは、宗教が本来持っている心の浄化作用で、人々の悩みや迷いを救い、すばらしい解答を与えてくれる。だが、心が浄化されたときには超能力を手に入れられるところにいるのに、宗教一辺倒の本は、それを気づかせてくれない。

重ねて言うが、密教は、宗教として心を浄化させるだけのものではない。それは超能力開発の手引きなのだ。

それでは、密教が教える「念力開発法」を順を追って説明しよう。



① 精神を統一する

「人の貴きは国王にすぎず、法の最なるは密蔵に如かず。牛、羊に乗って未知を行くときは久うして始めて到り、神通に駕して跋渉するときは勞せずして至る。諸乗と密乗と豈に同日にして論ずることを得んや。仏法の心髓要妙斯にあり——。」

これは、弘法大師空海の先生である中国の恵果和尚の言葉である。

仏教の最終目標である仏になるのに、頭教は牛や羊に乗って行くように遅いが、密教は神通に乗って行くのだから速いと

いつているのだ。

だが、どうすれば神通に乗れるのか、どうすれば即身成仏できるのか、その具体的な方法は、どこにも書かれていない。

わかっていることといえば、まず心を浄化し、精神を統一することである。邪念や雑念を払い、心をリラックスさせた上で精神統一だ。これはすべての基本であるから、根気よく、きちんと訓練することが必要である。

精神統一の密教的方法はいくつかあるが、次に二つを紹介しよう。

たせ 滝に打たれる法

密教の修業場の不可欠の条件は滝があることだが、滝を神聖視し、精神統一の場とするのは密教に限ったことではない。古今東西、英雄豪傑や宗教家は、滝に打たれて悟りを得ている。水しぶきをあげてごうごうと

落下してくる流れを、頭や肩で受けとめることは、つらく恐ろしい感じがする。が、それに耐えるためには、無念無想まさに何も考えずに精神を集中させるしかないのである。

滝の水量、高さなどによって、

密教念力を





手に入れる秘法とは

滝には不思議パワーの素がある

現在来日中の中国の気功師、盛鶴延氏は、気功の不思議パワーは6つに分類できるとしている。それは、

①磁気 ②赤外線 ③遠赤外線 ④光子 ⑤咒 ⑥負离子 の6つだ。

①磁気、②赤外線はわかるだろう。③遠赤外線とは最近話題の「熱くない熱線」のこと。④光子については、最近のNHK テレビで、気功師の掌から光が出ていることが証明されている。⑤咒とは「真言」のこと。盛鶴延氏は「定められた真言/パワーを持っている」と語っているが、密教呪術がこの真言のパワーを使っているのは、本誌前号で詳しく説明したとおりだ。

問題は⑥の「負离子」である。

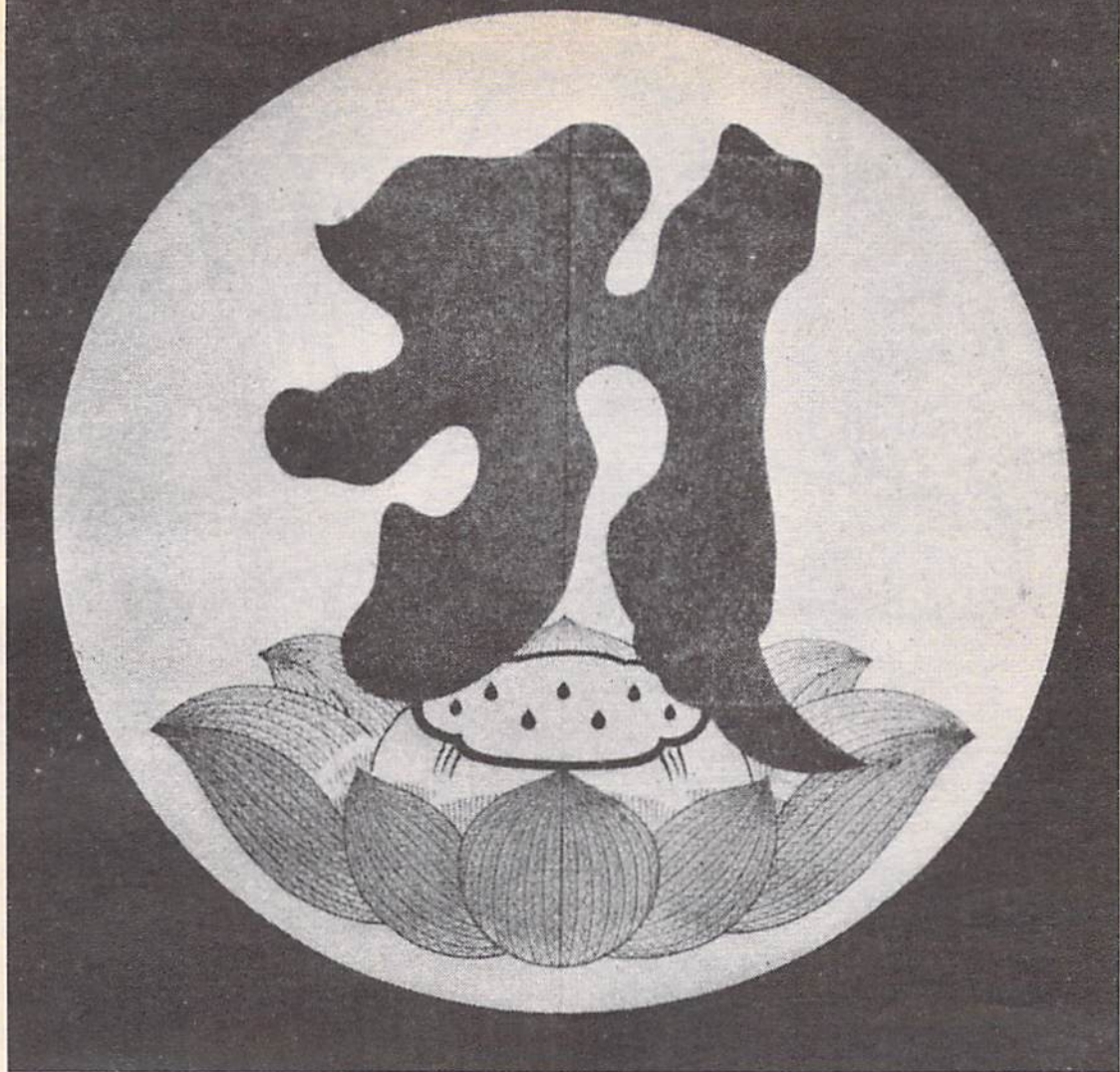
負离子とは、不思議パワーを生み出す素で、目に見えない粒子として空気中に存在しているという。それは、普通の場所では1m³中に1~3個しか存在していない。だが、滝の近くでは、1m³中に3000個以上もあるというのだ。

滝に行けば、誰でも体内に負离子が満ちてくる。それを気のパワーとして使うには、訓練が必要なのだ。だが、パワーを使わなくとも、滝で負离子を充滿させることは、精神的に良いことだと盛鶴延氏は語っている。

日本の超古代科学書といわれる「カタカムナ文庫」を解説した槍崎肇氏は、特定の場所に「マイナス・イオン」が集まると言い、そこを「イヤシロチ」と名づけた。イヤシロチに集まるマイナス・イオンとは負离子のことなのかもしれない。

肩に受けるか背に受けるか、いきなり頭に受けるかは、変わってくる。また、その滝が霊場や聖地の場合には、受ける方法も限定されてくる。こんな場合には、そこにいる指導者や行者に、具体的な指導を受けるのがいいだろう。

最近の宗教ブーム、精神世界ブームの中で、滝での瞑想を行っているものも多い。どんな形であれ、滝に打たれることは、精神統一の行法として最もききめがあるのだ。



梵字・仏画を使う法

滝で精神統一をするのは理解できる。だが、自分はもともと宗教に興味はないから、梵字や仏画は見たくはない——。こう考える読者も多いだろう。だが、再三言うように、密教による念力開発とは、即身成仏への道を歩むことである。

滝で精神統一することは優れた方法だ。だが、滝の近くに住んでいなければ、毎日滝に打たれることなどできない。

梵字や仏画による精神統一は、あなたの信仰心に関係なく、すばらしい効果を生んでくれるはずだ。

まず梵字か仏画を用意する。無い場合は、上の写真を切り取って使ってもよい。仏画は大日如来の画がよいが、彫像でもかまわない。

あぐらを組んで座り、目の高さの位置、50〜60cm程の近い所に梵字・仏画を置く。手は両手



を組み合わせ、掌を上に向けて太ももの上に置く。目は半開きにして正面をリラックスした形で見ると、次の真言を唱えてから、精神統一をはかるのだ。

〈真言〉

おんぼうじ したた

はた はだやみ

おんさんまや さとばん

この方法は、毎日決められた時間に、根気よく繰り返し行う。この精神統一法は、念力開発の第一歩ではあるが、これだけで、あなたは学力上昇、精神力アップを果たせると思う。

② しんれいりよく 心霊力を高める

心霊のパワーについては、欧米では100年以上前から科学的に研究されており、心霊科学という科学分野まで確立しようとしている。

心霊科学者の中には、すべての超能力は「霊力」で起きると言っている人もいる。また一部の超心理学者は「四次元現象」とも呼んでいるが、私はこれには賛成できない。四次元現象とは、宇宙存在からの他動的な力なのである。

心霊力による現象は、きわめて多い。死者との対話から心霊治療、さらには心霊力を得ての芸術創作活動等々である。しかしまた、心霊力については、疑いを持つ人も多い。超能力の存在は認めるけれど、霊や霊力といったものを否定する人が多いのだ。確かに、心霊は明確に形として見えるものではない。否定する人、半信半疑の人が多いのもしかたのないことだろう。心霊力は、どうも生まれつき

の才能のようなものが作用しているようだ。いくら修業や訓練を積んでも、この力が身につかない人もいる。しかし、私の知る限りでは、半分以上の人は、ちよつとしたことで心霊力を得ている。

心霊力を得る方法もいくつかあるが、ここでは「般若心経」を使う方法を紹介しよう。私の知っている数多くの例からいっても、「般若心経」の写経や、数多く音読することによって秘められた心霊力が開発されるようだ。こうして心霊力を開発した人のほとんどは、宗教にまつたく関心のなかつた人だった点も興味深い。「般若心経」は、心霊力開発の虎の巻なのかもしれない。

「般若心経」については、数多くの書物が出版されている。書店に行つ

て、あなたが気に入つたものを読むのがいちばんだ。

解説文や内容吟味などは、それほど重要ではない。おおまかな意味を一度掘めばよい。あとは、経文そのものを熟読することだ。写経をするのもよいだろう。

経文そのものはきわめて短し、咒言そのものも簡単なものだから、すぐ覚えられるだろう。この咒について、経文のなかで「是大神咒(大いなる神の真言)是大明咒(明らかにする大いなる真言)は無上咒(これ以上のものがない真言)は無等等咒(等しく並ぶものがない真言)」と絶賛している。

それではここに、般若心経の全文を紹介しておこう。



まかはんにやはらみつたしんぎよう 摩訶般若波羅密多心経

観自在菩薩。行深般若波羅密多時。照見諸蘊皆空。度一切苦厄。

舍利子。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。受想行識。亦復如是。舍利子。是諸法空相。

不生不滅。不垢不淨。不增不減。是故空中。無色。無受想行識。無眼耳鼻舌身意。無色声香味触法。無眼界乃至無意識界。無無明。亦無無明尽。乃至無老死。亦無老死尽。無苦集滅道。無智亦無得。以無所得故。菩提薩埵。依般若波羅密多故。

心無罣礙。無罣礙故。無有恐怖。遠離一切顛倒夢想。究竟涅槃。三世諸佛。依般若波羅密多故。得阿耨多羅三藐三菩提。故知般若波羅密多。

是大神咒。是大明咒。是无上咒。是无等等咒。能除一切苦。真實不虛故。說般若波羅密多咒。即說咒曰。

羯帝 羯帝。波羅羯帝。波羅僧羯帝。菩提薩婆訶。

般若心経。

般若心経。

般若心経。

③ 念力開発の訓練

密教の特徴的な言葉に「加持（あや）祈禱（ねが）」というのがある。加とは、他の力が来ておのれに加わることで、持とは、その力をおのれの力と同化させ離さないことである。

弘法大師の「即身儀（おんじんぎ）」には、こう書かれている。

「加持とは、如来の大悲と衆生の信心とを表す仏日の影が衆生の心水（心の動き）に現る加と、行者の心水よく仏日を感じる持の合わさったものである。」

簡単に言えば、加持とは、その人の気持ちに仏に通じ、仏の光の中にその人がいられる力があり、それが持続できる状態——ということだ。

これは実は、たいへんなことなのである。このために、修業僧は高野山などにこもって修業を積むのだ。——自分が、宇宙の中の小さな物であり、かつまた、自分の中にその大宇宙を感じるために。

加持祈禱こそ、密教念力の最高峰なのだ。それは、長年の修業によって得られる、即身成仏のための力なのである。そして、この力を、ごくわずかな訓練で得てしまおうというのが、密教念力開発法なのだ。

密教の極意では、印を結ぶことでその念力を効果的なものにしていく。印（印契）は、両手の10指でありとあらゆる宇宙を表現するもので、地震・洪水と

いった天変地異から、人事の礼節まで動かす力がある。これについては、本誌前号で触れたので、今回は省略しよう。

印を結ぶ結印法ではなく、梵字カードを使って念力を開発する方法がある。今回は、その方法を紹介しよう。

これには、6枚の梵字カードが二組必要だ。左のカードを切り取って、厚手の紙に貼って作ってもよい。もう一組はコピーして作る。少々手間どるかもしれないが、自分で作ってもよい。トランプ大の厚紙を12枚作って、それに自分で梵字を書きこむのだ。

カードが二組できたら、いよいよ念力開発法の訓練だ。これは一人でやる方法と、二人でやる方法がある。どちらの場合もまず精神統一を行い、般若心経を唱えてから始めよう。

■ 一人でやる場合

12枚のカードを裏返しに重ねる。次に「ばん・きや・か・ら・ば・あ」と唱えながらカードをよく切り混ぜる。

よく切り混ぜたら、カードは裏返しのまま机の上に立てて並べる。心を落ち着けて「ばん」と言ってから、カードを一枚とり表を向ける。もちろんこの時どのカードが「ばん」かを自分

で思いあてるようにするのだ。一枚とるごとに、ノートに正否（○×）を書いておく。「ばん」「きや」「か」「ら」「ば」「あ」の6回行ったら、終わりだ。（6枚は残ったままになる。）

この訓練は1日1回でよい。また、単なる透視訓練とは違うから、統計をとる必要もない。精神統一をして心霊力を高めれば、必ずあなたの手は、思った通りのカードを引きぬくようになるはずだ。





ラ…火の意味		バン…智の意味	
バ…水の意味		キヤ…空の意味	
ア…地の意味		カ…風の意味	

■二人でやる場合

これは、あなたの念を相手に送り、相手を動かす訓練だ。

カードは一組6枚を使用する。二人で向き合って座る。あなたはカードを持たず、相手に持たせる。相手は6枚をよく切り混ぜ、裏返しにして並べる。

あなたは、6個の梵字のどれか1つ（順番にとらわれない）を強く頭に思い浮かべる。梵字の像がはつきり結べたら、相手に合図を送り、どれか1枚だけを表にしよう。

その正否（○×）をノートに

つけ、再び相手に6枚のカードを切って並べてもらい、また同様に梵字を思い浮かべてカードをめくってもらおう。6回行ったら終了。これも、1日に1回までとし、2回以上は行わない。

これらは、できるだけ静かな場所でおこなうようにしよう。カードあてがうまくいなくても悲観することはない。この訓練は、確実にあなたの念力を強めてくれるはずだ。

最後にもう一度言うが、精神統一と心霊力上昇を忘れずに行うこと。カードによる訓練も大切だが、何より精神統一の心の状態が大切なのだから。

